

＊ 虎井まさ衛のトークの前に ＊

時間がなくて触れられないのですが、ぜひ知っておいていただきたいことを簡単にまとめました。

・ひとくちにLGBTと言われますが、LGBとTは抱えているテーマが違います。

LGB・・・性（的）指向 Sexual Orientationどの性別（異性か同性か両性か。他にもありますがここでは割愛いたします）を好きになるかがテーマ。

<嗜好という字は使いません。嗜好品のような自分の好みで選ぶものとは違うからです>

T・・・性自認 Gender Identity

自分の性別をどう認識しているか。男か女か、そこには当てはまらないか、あるいは心身の性別にズレがあるか、等がテーマ。

★LGBは（好きになる）相手の性別、Tは（心身でくい違う）自分の性別の問題というわけです。

◎トランスジェンダーの説明は、現在は、「生まれた時に割り当てられた性別と性自認が異なる人」というのが一般的です。

・用語の変遷

たとえば「ホモ」「レズ」のような短縮形を使って当事者と話す、「オカマ」などのような<男性同性愛者>を指す言葉でトランス女性を呼ぶ、ということは、この問題をよく知る人は避けるようにしていると思います。

気にする人はものすごく気にするし、しない人は全くしませんけれど、気にする人がいる言葉だということはぜひ記憶の片隅に留めておいてください・・・。

さて、現在は、以下のような変遷も見られます。

★性転換手術→ 性別適合手術・・・これはすでに使用されるようになって二十年は経つ言葉ですが、以下三つは、まだ数年です。

★性転換→ 性別移行

★MTF(Male to Female)、FTM→ トランス女性、トランス男性

★性同一性障害→ 性別不合

※アメリカの診断基準では、性同一性障害から性別違和になりましたが、日本は診断名を世界保健機関 WHO に倣っており、WHO では性別不合と呼ぶようになり、日本でも「性同一性障害学会」が、「日本性別不合学会」になりつつあります。

様々なトランスジェンダー

異性装するだけでよいか、ホルモン投与や上半身の手術等をして社会的な性別を変えるだけでよいか、下半身、性器の形状も含め身体的性別を変えたいか・・・一人一人違う望みを持っています。

一般的には手術を全て終わらせて戸籍も変えたい、という人のことを指すと思う人が多いのですが、実は手術をする人の数のほうがずっと少ないのです。

ヒゲ等の外見や声などを男らしくするためには、あるいは筋肉を落としたり脂肪を付けたりして女らしくするためには、服が隠している性器部分を手術しても役に立ちません。それらはすべて、ホルモン投与によっておこるものなのです。つまり社会的に男で、あるいは女で通用させるには、下半身の手術は必要ないのです（卵巣や睪丸を取ると、ホルモン剤が効きやすくなる傾向がある、ということはありません）。<異性装に関しては、その装いの時は社会的性別を変えていきたいか、あるいは単なる趣味として捉えているかなどで、ここに含めるべきなのか等の議論があります><×ジェンダーと呼ばれる人々がいます。この言葉は和製英語で、英語圏ではノンバイナリーやジェンダー・クィアなど、いくつか呼び方があります。男ではないと思うけれど女だとは思わない、あるいは女だと思われるのは違う、というように、性別が流動的である人を指し、トランスジェンダーのように「こちらから、あちらへ」という移行とは一線を画すので、トランスジェンダーの範囲には入らない、と言う当事者の方が多いです>

トランスジェンダーの原因論の変遷

※トランスジェンダーの多くは、原因論が好きではなく、どうしてこうなったかというより、こうなってしまった私を何とかしたい、と考えることが多いのですが、周囲の人々は原因論にとっても興味を持つので、ここでも簡単に書いておきます。原因論は、まだ判明していませんが、色々と研究されてきました。

・1980年代は、育て方でなるのではないかと言われました。末っ子の男の子が、

お姉さんたちとばかり遊んでいた等。

・1990年代は、脳の性が分化するときにアクシデントがあったのではないかと言われました。もともと全ての人間は最初の胎児としては女性型であり、そこから性器も脳の中身も男性になっていったのが男なのですが、その際に脳の方だけうまくいかず、肉体は男だけれど考え方感じ方が女のままで出てきてしまったというような説です。

虎井の場合は、母が妊娠中に男性ホルモンのような働きをする流産防止剤を大量に使った、という事実があります。それがへその緒を通じて、脳に作用したのではないかというわけです。その薬は70年代には使用禁止になりました。同年代のトランス男性からも、六人ほど同じような経験を聞きました。しかし今でもトランス男性は生まれているため、一時はそのような薬害でなった人がいたとしても、今の人々は異なる原因でしょう。

・2000年代に入ると、「脳の性分化のアクシデントを起こしやすい遺伝子を持っている人がいる。そうすると、原因は遺伝子なのではないか」という説が出てきて、今はこれが主流です。

☆このように、「トランスジェンダーになりたいくてなるわけではなく、生まれる前からそうなることになっていたのだ」ということは、医学的にわかってきています。

☆男が好きだから女になりたい、女が好きだから男になりたい、という人は、少なくとも 虎井の知っているトランスジェンダー（ほんの500人ほどですが）の中にはいません。